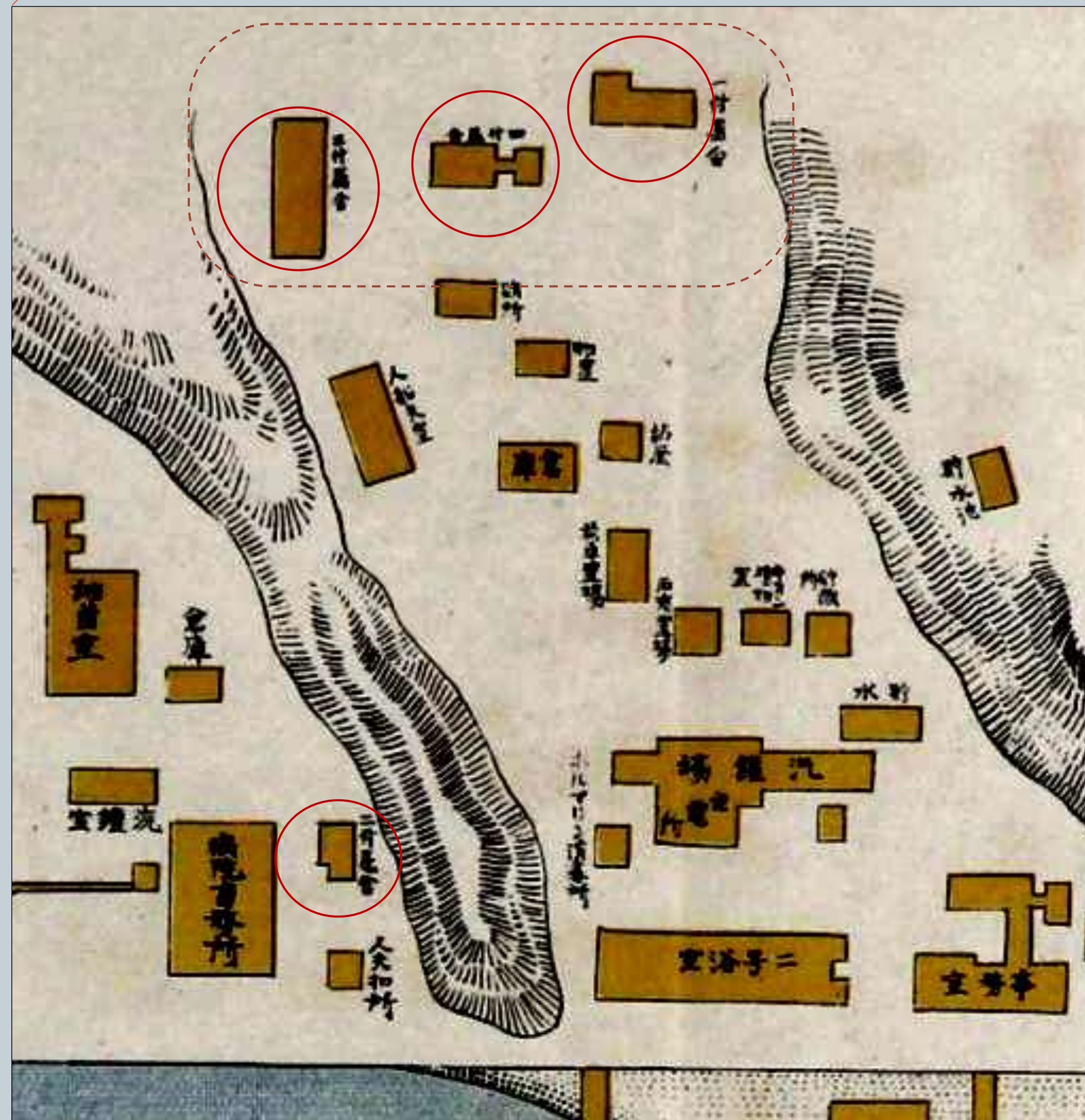
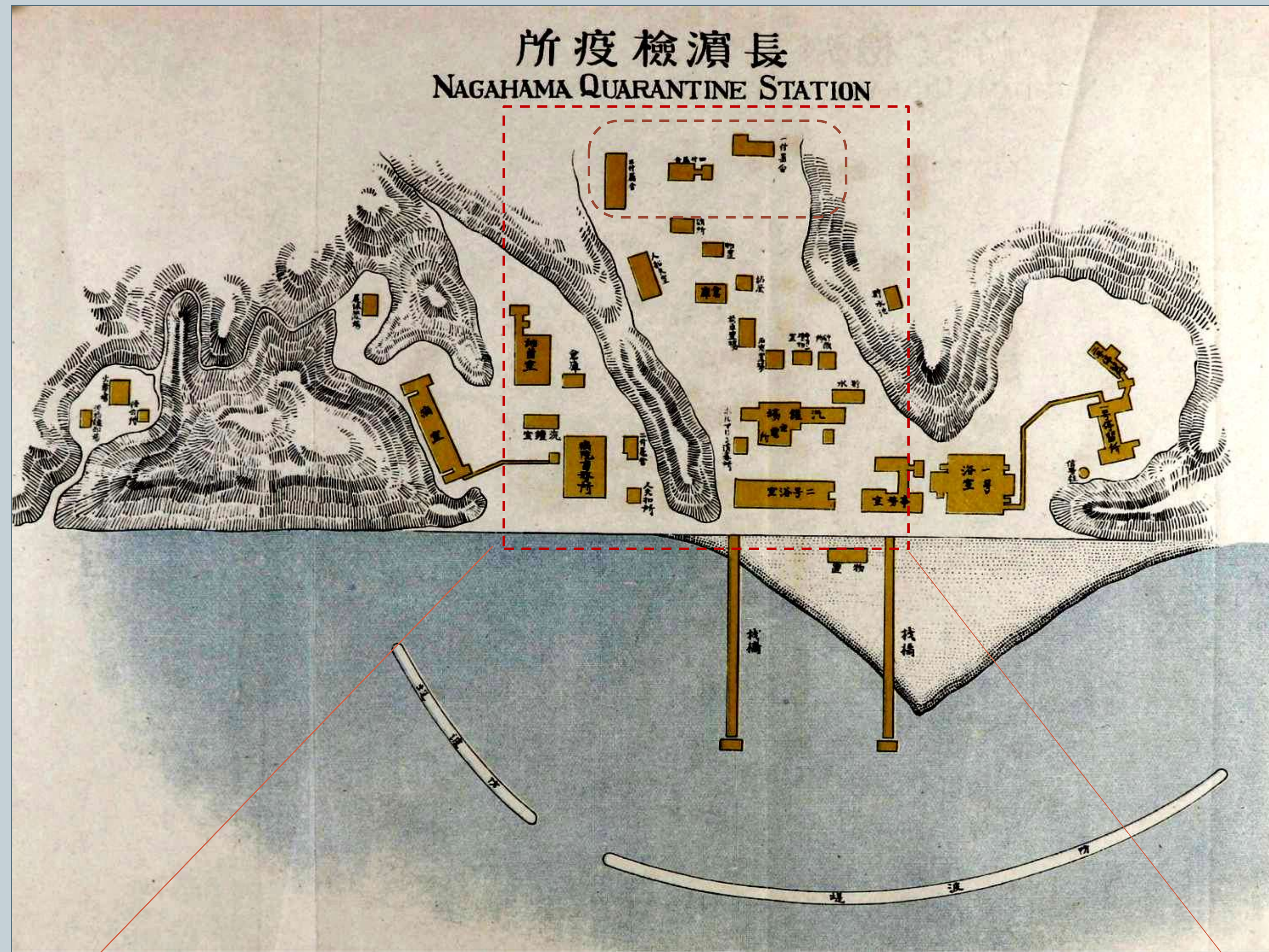


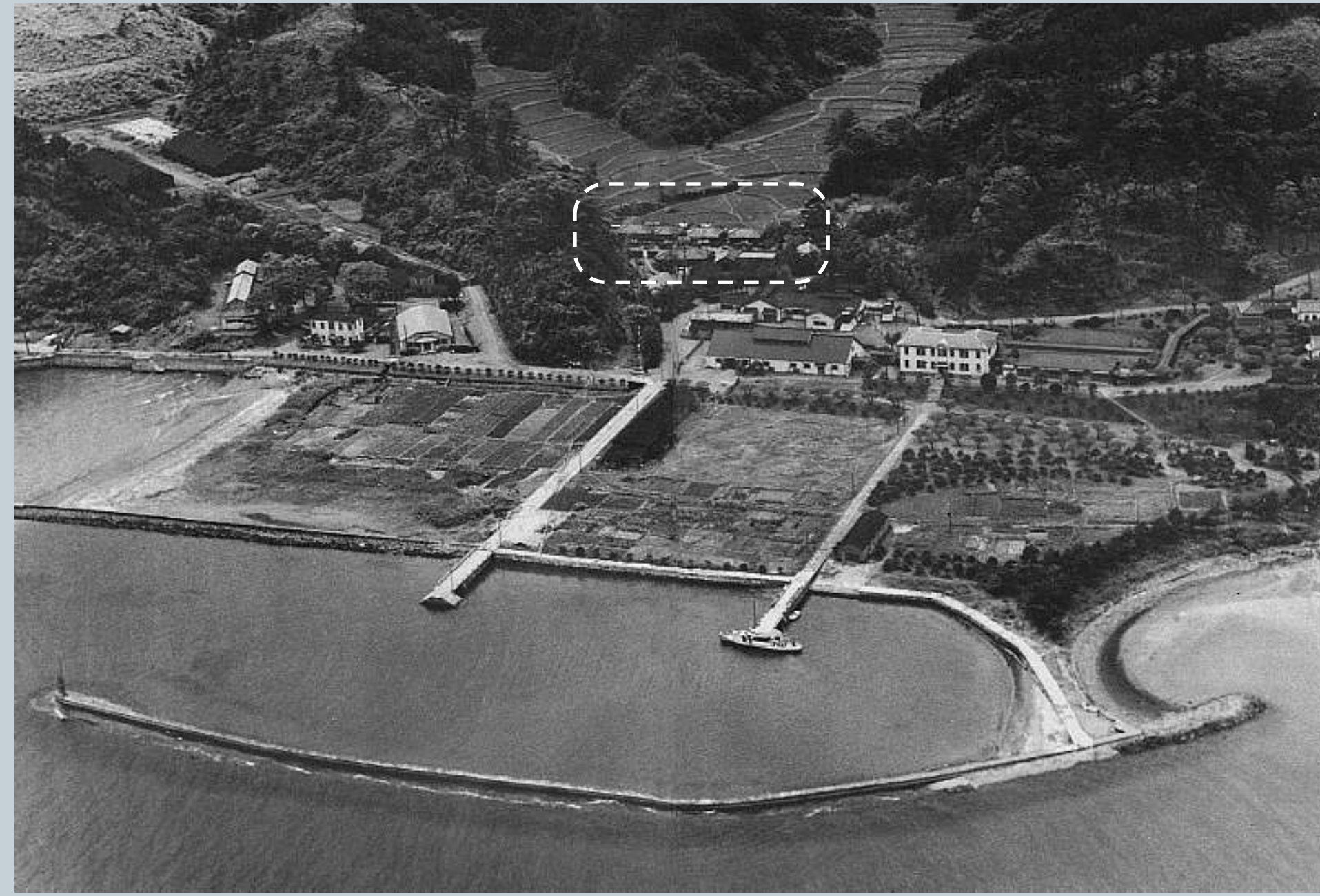
長浜検疫所敷地内に職員用の住居区域がありました

開設当時(明治30年代)の長浜検疫所



中央部の拡大 ○ 付属舎 □ 住居区域

昭和26年の長浜検疫所



↓ 現在の長浜検疫所



現在の地図に昭和10年の長浜検疫所の図を重ね合せる



長浜検疫所には検疫業務用の建物の他に、職員や来客のための住居用建物もありました。

野口英世が長浜に勤務した頃(明治32年)、職員の住居区域に3棟の付属舎(住居用建物)がありました。

しかし、野口がどの付属舎に住まっていたか、どのような建物であったかは不明です。

その後、付属舎は増え、明治43年の実測図面では8棟(職員用7、来客用1)となっています。



昭和初期の第3付属舎



終戦後間もないころの付属舎(位置不明)



長浜検疫所に勤務していた時の野口英世(明治32年、22才) どれかの付属舎で寝泊まりしていました